発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2012
京都総本社　〒601－8004
京都市南区東九条東山王町９
電話　(075)671－3211(代)
ＦＡＸ　(075)671－2140
東京本社　〒113－0033
東京都文京区本郷４－９－13
電話　(03)3816－4721(代)
ＦＡＸ　(03)3811－5222
http://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp
中外日報

中外日報

震度7でも転倒防止

プロセブン㈱　耐震マット開発

仏像・仏具や陶磁器にも

震度7クラスの地震でもパソコンや家具、電化製品、小物類の底にマットを貼るだけで転倒を防止――。プロセブン㈱が開発した「プロセブン耐震マット」は、固体と液体の性質を持つゲル状のポリウレタン製品。優れた柔軟性と粘着力で、あらゆる揺れに対応できる驚異の粘着マットとして注目され、納入実績を広げる。

厚さはわずか5ミリ。ゴムより柔軟で、引っ張ると伸びる。高分子化合物の特性として極めて強い粘着性があり、同時にゆっくり剥がすときれいに剥がれるという相反する性質を持つ。不純物や有害物質を含まず安全で、2チン四方のマット4枚で20キロ、5チン四方4枚で100キロを支える。

品質については、客観性・公平性を期して第三者機関に委託し物性データをまとめている。耐震性を確認するため平成17年に国内初の「地震実験車」を導入。各地に移動して震度5～7の揺れを再現、耐震マットの有無で家具類の転倒実験や児童への安全教育を行う。

強い粘着力と柔軟性で激しい揺れに耐えるだけでなく、振動や伝達防止（防震・緩衝・防音）にも優れた効果を発揮する。アート引越センターは新サービスとして導入しており、また美術館の陶磁器や置物、寺院の仏像・仏具などの転倒を防ぐため開発した美術品専用シリコーンマットは、鹿児島県指宿市の美術品展示施設「薩摩伝承館」で採用されている。

小玉誠三社長は、阪神・淡路大震災で友人を亡くしたのを機に私財をなげうち、全精力を耐震粘着マットの開発に注いできた。「いのちの大切さが原点。何か社会の役に立てれば」と話している。

写真は4枚入りのプロセブン耐震マット3点。同社は本社＝大阪市天王寺区清水谷町3の19、電話06（6191）3810。